

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
16・10・17(土)
南NEWS NO58

南のサッカーは正にAL！

アクティブ・ラーニング(Active learning)は、学修者主体の学習手法の一つであり、学修者が能動的(アクティブ)に学修(ラーニング)に参加する学習法の総称である。出典:フリー百科事典『ウィキペディア』
問題解決能力、批判的思考力、コミュニケーション能力といった汎用的能力の育成を図ることが期待される学修です。

グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等が、教室外でも共同学習、ケーススタディを使うなどの発見学習、調査学習、体験学習などがあるのです。

南が試合でチームのめあてを自分たちの話し合いで決めて、その達成についてみんなで振り返り、次の課題を見つけ解決・克服を図っていくM-T-Mの営みは正に発見学習・課題解決学習であります。これから学校教育に導入されるアクティブ・ラーニングそのものです。GAMBANOTE持たせてくださいね。

コーチのみなさんもお家のみなさんにも良く理解していただいて大切にしてください基本的コンセプトです。
by 南のアンパンマン

U-12後期リーグ 9月10日(土) 文化大G

めあて: コーチング デュエル フォアチェック 試合を楽しむ
どのポジションにいても仲間のプレーに必ず動き出す(コーチから)

試合結果: 南八王子 1-3 七小 前半 1-2

キックオフからすぐに平井君がバイタルエリアでボールを持ちチャンスを作ります。が、厳しい体寄せの中、横パスを相手にカットされ逆襲を受けます。そこからバックの裏までつなぐ、キーパーと1対1となり、さすがの尾川君も止められず失点。前半5分で1対1を2回作られ2失点。

しかし右MF大賀君の、どんなボールにもあきらめず絡んでいくプレーや、厳しいマークの中で体を張ってボールをキープし、突破を試みる加々美君のプレー、後ろからの井上君の切らさない声掛けで、相手に行きかけた試合の流れを互角に戻しました。

お互いチャンスを作り合いますが、相手のチャンスには中田君がしっかり体を寄せてシュートを打たせず、南もゴール前では体を寄せられシュートを打たず、という中で左MF前川君の鮮やかなミドルシュートがゴールし1点を返します。そこから前半終了までの1分間は南の流れでした、野崎君の長い距離を速く走るプレーなど相手陣で試合をしますが、この時間帯のチャンスで得点できなかったことは大きな反省点です。

後半は、徳永君、佐藤君、小泉君と、トップからどんどん仕掛けていくメンバーで相手陣をあわてさせました。徳永君の足の速さを生かした左サイドの突破、ゴールラインから後ろに折り返したプレーや、佐藤君が前から追い中盤がボールを奪取する連携プレー、また、後半から出場した麻生君が久々に(私が試合に来たのが久しぶりなので)見せてくれたキレのあるドリブルは、バックから相手陣内まで切れ込み、チャンスを作りました。

しかし、南の攻めが単発なため得点できず、良く守っていたBK陣のゴール前での体の寄せが甘くなったところで追加点を取られてしまいました。

6年生は、後半最後まで攻めの姿勢を続け、バックに入った平井君が相手陣内まで迫力のあるドリブルで攻め上がったり、山本君が右サイドから攻撃に加わったりと「得点できる」と思わせながらの終了ホイッスルでした。

お互いが、きついときでも、仲間のプレーをしっかり見て動き出せば、攻めも守りも単発にならないで、もっといい試合ができると思います。

by 伊藤コーチ



『教室は宝箱』

『和の国富論』藻谷浩介著 新潮社 p145~147

菊池 よく『教室は宝箱』なんて言いますが、それは教室が実社会の縮図だからこそ『宝箱』なんです。それなのに、最近はそのような多様性のある宝箱を小さくしようとしている。

藻谷 その行き着いた先が、昨今の国会みたいに、まったくコミュニケーションが成り立たない社会。

菊池 コミュニケーション能力というのは、経験しないと伸びない力です。失敗と成功を繰り返す中で伸びていくわけで、学校教育ももっとそれを体験させる授業を大事にしていけないといけません。それは他者との関わりの中でしか学べないし、凹凸した環境の中でしか深まらない。

……中略……

菊池 結局、学びというのは、対話の中から新たな気づきや発見を得ていく作業です。だから、『相手をリスペクトする』などコミュニケーションの基礎がなければ、学びも深まらない。

ところが、学力テストや受験勉強では、コミュニケーション能力が異常に低い。むしろそこをすっ飛ばして最短コースで答えに行ってしまう人が評価されてしまうこともある。

藻谷 学力だけで人を評価すると、重要な国際会議でいきなり「shut up!」と叫んでしまった困ったエリートが出てくる。実社会では、官僚組織を筆頭に大企業でも、学歴に拘っている組織ほど次々と凋落しているように思うんですが、どうして日本の教育は変わらないんでしょう？

※菊池省三 北九州市公立小学校教師 独自のコミュニケーション教育を実践する。

対談前の藻谷さんの言葉

「おりこうちゃん」だけの選抜は、彼らの成長のチャンスの破壊である。真のエリートは、崩壊した学級にあっても下二割の仲間を切り捨てずに歩んだ経験を持つ、「スーパーA」の中からしか生まれないのだ。

菊池先生の実践は、世界の教育のめざすべき本質を示している。一億総教育評論家のわれわれは、いつ気付くのだろうか? 同書 p118